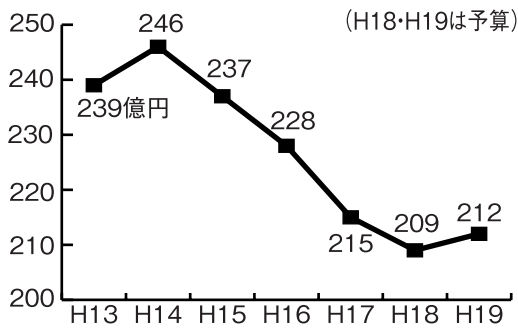
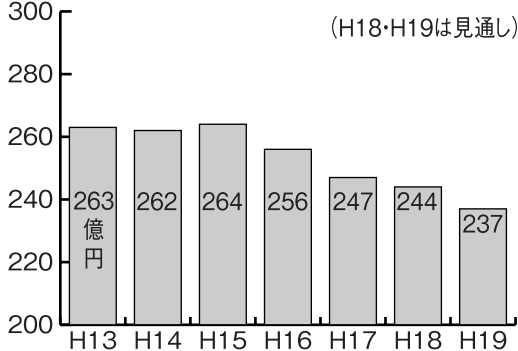


## 【グラフ1～6は一般会計ベース】

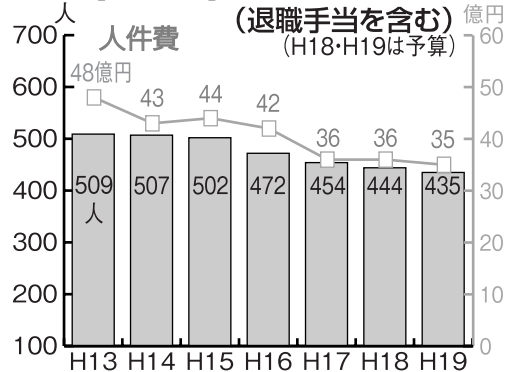
### ▼【グラフ1】歳出決算額の推移



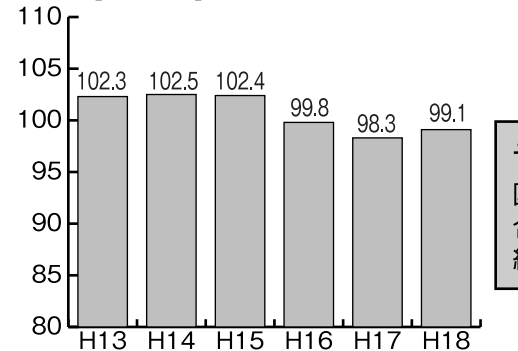
### ▼【グラフ2】地方債残高



### ▼【グラフ3】人件費の推移

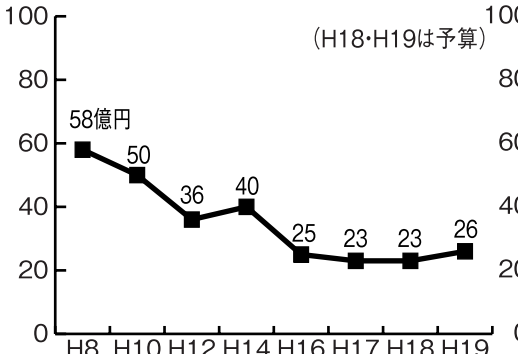


### ▼【グラフ4】ラスパイレス指数の推移

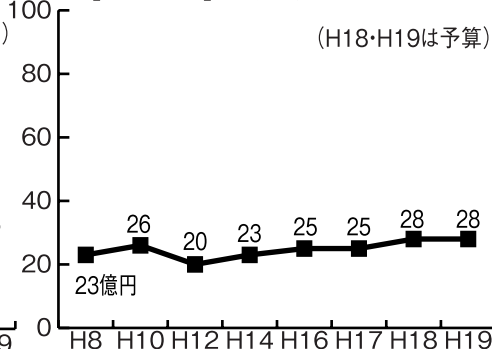


ラスパイレス指数とは  
 国家公務員の給料額を100とした場合の地方公共団体(市町村など)の給料の水準を数値で示したものである。

### ▼【グラフ5】普通建設事業の推移



### ▼【グラフ6】扶助費の推移



# 事業の「選択と集中」を全庁挙げて 徹底的に考え抜き、 さらになる財政健全化を進めます

笠岡市では、県下でもいち早く、平成15年度に財政健全化計画を策定し、人件費の見直しなどを行い、最重要課題として、財政の健全化に取り組んでいます。その進捗状況をグラフに表しながら説明します。

まず、グラフ1では、一般会計の歳出決算額(18、19年は予算)を示しています。笠岡市のみならず、国・地方を取り巻く財政状況は、大変厳しいものとなっておりますが、「強くて、ぬくもりの感じられるやさしい笠岡」「活力ある福祉都市」を重点分野の予算とし、経費削減による縮小一辺倒に陥ることなく、一層の「選択と集中」、を全庁挙げて徹

底的に考え抜き、予算に反映させています。グラフ2は、一般会計の地方債残高、いわゆる市の借金の推移です。財政健全化計画の実施や事業の選択により新たな市債の発行を抑制していることから、ピーク時の平成10年度に比べ、約45億円残高を減少できており、順調にかつ着実に減ってきています。

グラフ3は、市職員の人件費と職員数の変化です。職員数については、3年間の退職不補充などにより約70名の減となっております。また、給料構造改革の実施などにより、グラフ4のように給料の水準を示すラスパイレス指数も100以下となっており、さらに、各種手当の見直しなどにより、人件費の抑制に努めています。

グラフ5では、普通建設事業の推移を表しています。一度に多くの資金を必要とする事業については、中長期的な視点で検討し、年度ごとの負担を平均化しています。普通建設

事業などは、早くからその平均化に着手しており、ピーク時の平成6年度に比べ、平成19年度では、約3分の1程度となっております。

グラフ6は、扶助費の変化です。扶助費は簡単に言えば、福祉関係の予算です。高齢化の進展などに対応した福祉支援制度の充実を目指し、「人にやさしい安心づくり」を重点化予算としています。平成12年度の一時的な落ち込みは、介護保険制度の開始によるものです。